



大津市文化財活性化事業

(平成23年7月～平成26年2月)

1 計画の概要・実施体制

平成21年度に策定した大津市観光交流アクションプランを踏まえて、次の3事業を計画しました。

- ① 浜大津地域の文化遺産情報発信事業
- ② 浜大津地域の文化遺産普及啓発事業
- ③ 浜大津地域の文化遺産継承事業

本事業では、大津市が全体計画の企画、調整、事業の指導を行いました。教育委員会文化財保護課が窓口となり、文化財に関する情報の提供を、産業振興部観光振興課が観光業務に関する連携をとりました。

2 補助事業名

- ・ 大津市浜大津地域の文化遺産活用活性化事業

3 補助事業者名

- ・ 戦国大津物語浜大津地区実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

- ・ 大津市浜大津地域の文化遺産活用活性化事業

滋賀県の国指定文化財保有件数は全国第4位、県都である大津市は市町村レベルでは、京都市、奈良市に次いで全国第3位をほこります。延暦寺、三井寺（園城寺）、石山寺、日吉大社など、全国的にも知名度の高い社寺があり、貴重な文化財を数多く所有しています。

ところが、これらの文化財は、大津市にとって貴重な資源として、十分に活用されていないような状況にあります。例えば、観光客の数では、平成20年度で大津市が1,083万人であるのに対し、京都市は4,690万人（平成21年度）と、約4倍の差があります。

そこで、大津市の歴史・文化遺産を利用活用することで、より多くの人に大津市の魅力を知ってもらえるような事業を計画しました。

実施したのは、「(1) 計画の概要」に示した、3つの事業です。

「① 浜大津地域の文化遺産情報発信事業」では、近年爆発的な普及が進むスマートフォンを活用した情報提供を行いました。

具体的には、事業全体の情報を発信するためのウェブサイトと、スマートフォン向けのコンテンツを格納発信するためのシステムを、それぞれ構築しました。



このプロジェクトのウェブサイト

名称は、大津に「アイ」(information【情報】index【索引】i【私】eye【まなざし】愛…)をプラスして大津の魅力を引き出したいという思いから、「おおつプラスアイ」と名付けました。ウェブサイトでは、大津城や三井寺、琵琶湖疏水に関する情報発信のほか、実施エリア内にある美術館や博物館の展示内容や文化情報を収集し、カレンダー形式で発信しています。

スマートフォン向けアプリでは、多言語（日・英・中・韓）アプリケーションによって、①利用者の位置情報に応じて文化遺産について、テーマ、所要時間、エリアなどを考慮したコースを策定して、ナビゲーションを行う、ガイドシステム、②歴史や対象物を分野別に解説し、非公開場所、四季、行事など、訪問時にはない情報を出すことで、新たに「学ぶ」ことができるようにする辞典システムを、構築しました。



スマートフォン、文化財図鑑



スマートフォン、文化財紹介app04

「② 浜大津地域の文化遺産普及啓発事業」では、大津城に関する普及活動と、琵琶湖疏水流域に関する普及活動を実施しました。浜大津地区には、大津城、琵琶湖疏水、三井寺をはじめとする多くの史跡が所在しています。

しかしながら、近年多くの観光客を引きつけている城をとりあげようとした場合は、大津城は既に失われ、その痕跡もほとんど残されていません。大津城は関が原合戦の舞台の一つともなっており、NHK大河ドラマ「江」とも縁の深い場所でした。この、隠れた文化遺産を一般の人に分かりやすい形で公開することで、より多くの集客を目指しました。

そのため、琵琶湖を航行する「megumi」をチャーターし、大津市歴史博物館長による解説を聞きながら、琵琶湖を利用して湖岸の築かれた大津城・坂本城・膳所城という3つの水城をまわりました。その後、大津城を再現したCGを公開しました。

琵琶湖疏水流域に関する普及事業では、専門家の解説を聞きながら、京阪三井寺駅→琵琶湖疏水取水口→疎水第一トンネル入口→三井寺→小関越→藤尾橋→諸羽トンネル→山科疎水公園をまわりました。

「③ 浜大津地域の文化遺産継承事業」では、学生、高齢者などからボランティアを募り、浜大津地域を代表する大津城、琵琶湖疏水、三井寺などの文化遺産の背景・

魅力を、観光客に伝えることができる人材を育成することを目的としました。

平成23年10月9日、16日、23日、30日、11月6日、13日、20日（いずれも日曜日）の計7回にわたって、非公開寺院である三井寺の国宝勸学院客殿、国宝光浄院客殿を会場に、ボランティアガイドによる解説を行いました。

5 計画の実施の効果

「①浜大津地域の文化遺産情報発信事業」では、「おおつプラスアイ」と名付けたポータルサイトによる情報の発信を行いました。この試みは、地元新聞に掲載された以外は、ポスター、告知カードと限られた媒体の告知活動でした。しかしながら、実施エリア内の私鉄各駅、大津港、大津市関連施設、一般店舗、観光施設などで掲示の無償協力を得られたこと、利用者間の口伝えもあって、平成23年11月1日の運用開始から平成24年3月31日までの5カ月間で、延22,904人、一日平均約150人程の方に閲覧していただき、閲覧者は日ごとに増加傾向にあります。



スマートフォン、モデルコース スマートフォン、モデルコース案内

「②浜大津地域の文化遺産普及啓発事業」では、「megumi」船上での講演会の参加者は約70人で、講演を聞くだけでなく、実際に現地を見学し、さらにCGで再現された大津城を見ることで、わかりやすい講演会となりました。また公開されたCGは、①で立ち上げたポータルサイト上で公開しており、講演会に参加できなかった方でも閲覧できる環境を整えました。

「③浜大津地域の文化遺産継承事業」では、三井寺の国宝勸学院客殿、国宝光浄院客殿の特別公開には、7日間で1,191人の拝観者がありました。解説にあたったボランティアガイドは26人で、事前に勸学院、光浄院、三井寺の歴史や魅力について、学んでいただきました。個々人の経験や知識量によるガイドの解説内容の差を少しでも埋めるために、特別に資料を制作し配布したことも有効でした。

拝観者へのアンケートでは、「丁寧・親切・感じが良い」と、高い評価をいただきました。ボランティアガイドへのアンケートでも、「人に教えることで、自分の知識として身につけてくるよう



ボランティアガイド研修

に感じた」などの感想があり、拝観者・ボランティアガイドともに、大きな効果があったと思われます。

最後に、本事業の実施にあたって、文化遺産の情報、情報発信するサイトなどの構築、ボランティアスタッフの確保などを通じて、観光事業者、公共施設運用管理者、NPOなどの文化遺産に関する団体とのネットワークが得られたことは、大きな成果でした。

6 今後の予定

平成24年度、25年度は、3事業について、それぞれ以下の内容を予定しています。

平成24年度

①浜大津地域の文化遺産情報発信事業

- ・iPadに対応したアプリケーションの開発とスマートフォン向けウェブサイトを構築します。
- ・Twitterやfacebookと連携させることで、ユーザーの口コミによる波及効果を増大させます。
- ・スマートフォン向けのアプリケーションとして、文化遺産付近にマーカーを設置してスタンプを集めるシステムと、クイズに答えて上位者には特典（スペシャルコンテンツ、割引チケットなど）を提供します。
- ・平成23年度に作成したポータルサイトのコンテンツの充実、デザインを強化します。

②浜大津地域の文化遺産普及啓発事業

- ・浜大津地域の文化情報を、浜大津地域の主要施設内で、電子掲示板などを利用して、情報発信を行います。
- ・琵琶湖疏水に関する情報の公開、ツアーや講演会を開催します。

③浜大津地域の文化遺産継承事業

- ・平成23年度に育成したボランティアスタッフに加え、新たなスタッフを募集・育成し、非公開寺院の公開時の案内や、地域のコース案内などのガイド事業を拡充します。
- ・ボランティアスタッフには、ガイドシステムを搭載したタブレット端末（iPadなど）を説明の補助ツールとして貸与し、スタッフの差によるガイド内容のばらつきが少なくなるように努めます。

平成25年度

①浜大津地域の文化遺産情報発信事業

- ・前年度までに開発したシステムの拡充と、コンテンツの充実を図ります。

②浜大津地域の文化遺産普及啓発事業

- ・大津城のCG映像と琵琶湖疏水の情報公開を行います。
- ・大津城のCG表示を広く展示・公開するとともに、浜大津地域にまつわる講演会を開催します。

③浜大津地域の文化遺産継承事業

- ・前年度までと同様に、ボランティアガイド事業を行うとともに、新たな人材育成を行い、事業を拡大します。



京都の文化遺産活用活性化事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

本事業の基本的な理念・計画は、平成22年12月10日付で策定された、京都市基本計画（「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン」）の政策分野6（文化）に基づき、京都を魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目的としています。

本事業については、京都市が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行います。主な担当課、役割は次の通りです。

- ・文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課：京都の文化遺産総合活性化事業、文化財の取扱等、文化財調査に関する指導等
- ・文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課：ミュージアム活性化事業に関する調整等

また、事業の実施については、補助事業ごとに設置された実行委員会が行っています。

2 補助事業名

- ①京都の文化遺産総合活性化事業
- ②京都のミュージアム活性化プロジェクト

3 補助事業者名

- ①京都の文化遺産総合活性化実行委員会
- ②京都のミュージアム活性化プロジェクト実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①京都の文化遺産総合活性化事業

京都の民俗文化総合活性化プロジェクト

- ・調査研究事業：京都市内50カ所の剣鉾まつりの祭礼調査、300基の剣鉾計測等調査、関連する各種の資料調査に取り組みました。
- ・記録作成事業：京都の剣鉾まつりをテーマとした映像記録製作に取り組み、映像制作会社による撮影（下御霊神社、西院春日神社、平岡八幡宮の祭礼や鞍馬火祭など）のほか、立命館大学映像学部の学生によるミニ映像記録の製作にも取り組みました。
- ・人材育成事業：剣鉾差しに使用する帯（差袋・差革）の製作技法について、保存団体構成員を対象に実習会を開催し（参加者30名）、そのテキスト（冊子とDVDビデオ）を作成しました。
- ・継承事業：剣鉾差しが行われている地域で、剣鉾の破損や亀裂などで安全上問題があるものを対象に、修理を行いました。



嵯峨祭の剣鉾差し

祇園祭総合活性化事業

- ・調査研究事業：長浜祭、高山祭、水口祭、日野祭、舞鶴祭において、京都祇園祭と関わる諸祭礼の懸装品の調査を行いました。
- ・継承事業：幕末以来の休み山である大船鉾の復興に向けて、有識者を交えた検討会を設け、調査・研究を基に図面作成を行いました。その成果に基づいて、地元保存会および京都青年会議所により、船体部分の木組みが施工されました。平成23年10月より京都市無形文化遺産展示室（京都駅前）にて展示され、10か月で4万4000人ものご来場をいただきました。
- ・記録作成事業：祇園祭山鉾の懸装品のうち、渡来染織品の調査成果を整理し、報告書出版の準備をしました。



祇園祭大船鉾の復原展示

六斎念仏踊総合活性化事業

- ・人材育成事業：「獅子舞」や「蜘蛛の巣づくり」の伝承のために、それぞれの六斎念仏保存会の枠組みを越えた研修会を実施し、技術の伝承を図りました（40名参加）。
- ・体験事業：小学生から高校生を対象に六斎念仏踊りの魅力と基礎的な技術を教え、将来的へむけての地域の伝統芸能の活性化に取り組みました（市内9会場において、毎月1回以上開催し、参加児童は約100名）。
- ・調査研究事業：大学教授の指導を得て、上鳥羽地区の六斎念仏に関する古文書を整理、解説に取り組み、解説パンフレット製作の準備をしました。

京町家を活かした観光振興・地域活性化事業

- ・地域活性化（記録作成・調査研究・情報発信・人材育成）事業：保全・再生の重要度が高い京町家約600軒の中から、了解が得られた約60軒について建物の文化的価値の調査や図面作成等の調査を行いました。その報告書は、まちなみ景観の保全の基礎資料として、京町家の保全・再生・活用に向けた所有者・居住者の意識の向上やHP等による情報発信などに活用しました。調査は専門家ですが、調査協力を依頼する段階での基本的な説明には、一般市民の有志にもご協力いただき、京町家保全の重要性を理解し支える人材の育成も図りました。
- ・観光振興（情報発信・普及啓発）事業：海外の芸術家が京町家に滞在して創作活動を行いながら、同時に地域との交流を通じて様々な伝統文化を体験する地域滞在型観光（「京町家アーティスト・イン・レジデンス」）や、まち歩きツアー等など、文化遺産である京町家に関する情報を広く国内外に情報発信しました。

京都市文化財マネージャー（建造物）のスキルアップ事業

- ・人材育成事業：京都市では平成21年度より、一般市民を対象に優れた歴史的建造物を保存・活用する専門的

知識を有する人材を育成するための講座を開催し、その修了生142名が京都市文化財マネージャー（建造物）として登録されています。彼らの知識や経験値を上げるためのスキルアッププログラムの検討に取り組み、プログラムの一部試行を実施しました(受講者142名)。

京都伝統文化体験教室事業

- ・体験事業：生け花、茶道、能楽、邦楽、将棋、書道、雅楽、仕舞、わらべ歌、太鼓、着付け、京舞、琴、盆踊り、染織をテーマに、16の団体が子供教室事業に取り組みました。

一例をあげると、財団法人京都こども文化会館による「エンゼルこども文化教室」では、幼児から中学生を対象に、法帖を使用して書に対する教養を深め、硬筆や毛筆の基本指導から、さまざまな作品に取り組みさせる指導を行い、新聞社や北野天満宮の書初め展、競書誌への出品にも取り組みました。



半切に取り組む生徒たち

②京都のミュージアム活性化プロジェクト

京都市考古資料館活性化事業

- ・古代の祭祀体験事業：祭祀遺物の作成、ワークショップや講演会を開催し（4日間）、700名の参加を得られました。
- ・文化財遺跡マップ作成・遺跡ウォーク事業：平安宮における埋蔵文化財等のデータベースを作成し、ウェブ上で公開しました。その成果物を使用した遺跡ウォークには100名の参加が得られました。
- ・ボランティア育成事業：学芸員と同等の知識・技術の習得をめざし、少数（11名）に対して、8日間の講座・実習を行いました。
- ・遺跡顕彰説明板設置事業：考古資料館周辺の遺跡を顕彰する日・英・中・韓の4か国語表記の説明板を設置しました。
- ・小中学校出前授業事業：小中学校や児童館と連携し、出土遺物を使用した出前授業に取り組み、のべ1294名の子供たちに歴史を体感してもらいました。
- ・そのほか、展示及びパンフレット外国語化事業、大学連携による子供の利用促進事業に取り組みました。



古代の祭祀体験（条辰橋周辺）

「京都・大学ミュージアム連携」による京都市内大学ミュージアムの活性化事業

- ・シンポジウム事業：「いま、大学ミュージアムに求められるもの」を開催し、大学関係者、学生、一般市民など190名が参加されました。当日は、参加大学の紹介ブー



シンポジウム（於京都工芸繊維大学）

スを設けたほか、連携する大学ミュージアムを紹介する冊子の配布をしました。

嵐山・嵯峨野の観光・文化への誘い事業

- ・地域文化資源活用事業：小倉百人一首殿堂「時雨殿」のリニューアルの際、地域の観光・文化資源の展示のための整備をし、天龍寺と共催して特別展を実施しました。
- ・地域連携強化事業：嵐山保勝会、商店会、寺院、交通事業者、大学などに呼びかけ、地域の観光・文化資源の活用についての連絡会議を実施しました。
- ・新規利用者層創出事業：高齢者や子供にやさしい展示環境・学習環境の整備や、平安風俗衣装の体験などのソフトも充実させ、気軽に楽しく百人一首に親しむことができる博物館を目指して取り組みました。



リニューアル記念講演（市田ひろみ氏）

5 計画の実施の効果

①京都の文化遺産総合活性化事業

京都では、文化観光資源の保護と活用が特に重視されてきましたが、膨大な資源を前にして、学術的な調査が未着手であるとか、調査の後も成果が一般に還元されていないことが多々ありました。本事業では、剣鉾まつり、祇園祭山鉾の染織品、祇園祭の大船鉾、上鳥羽六斎念仏、京町家などを対象に、まず入念な調査研究を進め、そのうえで人材育成、普及啓発、地域連携などを計画・展開してきました。本事業で特に効果が大きいものとして、大船鉾の復興があげられます。本事業では学術調査と復原設計図の作成しか実施していませんが、これが復興を願う地元保存会を勇気づけ、また団体や個人を問わず多くの市民が資金を出し合い、本体の製作が進みつつあります。このように、本事業には、将来にわたって持続的に地域を活性化させ続ける役割を期待することができます。

②京都のミュージアム活性化プロジェクト

本事業は、京都市内に所在する美術館等を中心とし、展示等を通じた文化遺産の効果的な活用、館種、設置者の枠組みを超えた博物館同士の連携と交流、人材の育成等を通して、京都の観光振興・地域の活性化に資する取組を進めています。特に、時雨殿における地域関係者等との連絡会議の開催や、大学ミュージアム連携のプラットフォームの構築は、本事業ならではの取組です。

6 今後の予定

継続して取り組んでいる事業については、成果物をまとめつつ、それを活用した取組を実施する予定です。



堺市地域文化遺産活用活性化事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

「堺の歴史と文化を活かした都市の魅力と新しい顔づくり」を基本コンセプトとして、堺市文化芸術振興プラン（平成20年8月策定）で掲げた施策の体系に則って、堺市固有の歴史や文化資源を活用した以下の諸事業を実施しました。

- ①堺市地域文化遺産保存伝承事業（上神谷のこおどり保存伝承事業、船待神社神楽子供獅子踊り保存伝承事業、月洲神社神楽獅子舞保存伝承事業、鯨祭りをはじめとする湊・出島観光地域活性化事業）
- ②収蔵資料データベース化事業
- ③講演会事業

このうち、①堺市地域文化遺産保存伝承事業は、各保存団体と堺市、有識者等が協力して堺市無形民俗文化財保存伝承実行委員会を組織し、事業を進め、②収蔵資料データベース化事業と③講演会事業については堺市文化財課が直接実施しています。

2 補助事業名

- ①堺市地域文化遺産保存伝承事業
- ②史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業

3 補助事業者名

- ①堺市無形民俗文化財保存伝承実行委員会
- ②堺市

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①堺市地域文化遺産保存伝承事業

・継承事業

○上神谷のこおどり保存伝承事業

市内で最も古い民俗芸能として、国選択、大阪府指定無形民俗文化財に指定されている「上神谷のこおどり」は、「堺こおどり保存会」と、踊り手の団体である「鉢栄会」が後継者育成と芸能の伝承を目的に、事業を進めています。具体的には、地元の小学校4年生から高校生までの男子を対象に夏休みに2週間以上、秋祭りの奉納前に10日以上練習を行い、10月の第一日曜日の秋祭りに奉納を行っています。



上神谷のこおどり

本事業によって、練習や奉納時に使用する道具類のうち、笠や鐘など不足していたものを補充することができました。また、奉納時に使用している鬼と天狗の面について、保存会が所有する最も古い面(江

戸後期～幕末)について専門家による詳細調査をおこない、復元製作を実施しました。

○船待神社神楽子供獅子踊り保存伝承事業

神楽子供獅子踊り



上神谷のこおどり 面の復元製作

は、船待神社の祭神である菅原道真公を偲んで、毎年9月の例大祭に奉納されている、女兒の獅子踊りと男子の傘踊りからなる伝統芸能です。

本事業では、神楽子供獅子踊りの伝承と地域の活性化を目的にして、近年復活したお囃子の生演奏の講習及び、演奏者、踊り手の衣装などの整備を行いました。



船待神社子供獅子踊り

○月洲神社神楽獅子舞保存伝承事業

神楽獅子舞は、月洲神社の夏祭りの際に、子どもたちを中心とした踊り手によって奉納され、一頭の子に前足後足と二人入って舞う「二人立ち」という形態をとるなどダイナミックな獅子舞として知られています。本事業は、神楽獅子舞の伝承と地域活性化を目的に、衣装の補充等を中心とした道具の整備を行いました。



月洲神社神楽獅子舞

・普及事業

○鯨祭りをはじめとする湊・出島観光地域活性化事業

鯨祭りは、堺の海岸部にある出島の漁民が豊漁と安全祈願のため大鯨を仕立てて住吉大社へ巡行・奉納するもので、わかっているだけで、明治以来4回行われています。昭和29年には全長27mもの大鯨を曳行したとされており、全国的にも最大規模の鯨祭りでした。本事業は、鯨祭りを57年ぶりに実施することを通じて、堺の伝統行事の復活と、地域のにぎわいを創出し、地域活性化を促進することを目的としています。地元の住民が力を合わせて、全長13メートルの大鯨を制作、7月には住吉大社の太鼓橋を渡り、本殿前で鯨音頭を演奏しながら奉納をおこないました。また8月1日に住吉大社から堺まで神輿が巡行する神輿渡御式では、神輿の行列に大鯨が参加し、沿道の人々に堺の伝統行事を強くアピールしました。

②史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業

・収蔵資料データベース化事業

過去に行った発掘調査により出土した土器等の遺物について、調査概要報告書に掲載した個体を対象に再整理を行い、一般市民の利用を前提とした、容易な画像閲覧・検索が可能なデータベースの構築を目指しています。

・講演会事業

堺市内に所在する百舌鳥古墳群や史跡土塔の価値と意義を広く発信するために、堺市の専門職員に加えて、各分野に精通した学術経験者を招いた講演会・シンポジウムを実施することにより、文化財への理解を深める共に市民の誇りと郷土愛の醸成を目的としています。



史跡土塔講演会同時開催現地公開

5 計画の実施の効果

初年度にもかかわらず、事業全体を通じて市民及び地域の伝統文化保存団体等の積極的な参加がみられました。特に、堺市地域文化遺産保存伝承事業については今回初めて、保存団体、行政、有識者等からなる「堺市無形民俗文化財保存伝承実行委員会」を組織し、これまで希薄であった保存団体間の交流をはかり、今後の地域文化遺産の保存伝承のあり方などを議論することができました。

地域の文化遺産の継承に関する事業については、「上神谷のこおどり保存伝承事業」で、現存する最も古い面（鬼・天狗各二面）の詳細調査と復元製作を、専門家と踊り手集団である「鉢栄会」の連携のもと行いました。専門家との意見交換を緊密に行いながら、製作を進めたので、意見交換の過程の中で、伝承の当事者が地域で伝承されてきた芸能の歴史をより一層深く掘り下げて考えるきっかけとなりました。

また、完成した面は、奉納舞の際に使用する予定で、市民に対してより一層芸能の価値をアピールすることができるのではないかと考えています。

保存会のメンバーからは「保存会の活動だけでは、このような復元製作はできなかつた。地域活性化という事業の受け皿があって、行政や専門家と連携することを通じて、念願だった面の復元製作を行うことができた。」との声をいただいています。

「船待神社神楽子供獅子踊り保存伝承事業」「月洲神社神楽獅子舞保存伝承事業」においても、芸能の伝承に欠かせない用具類の整備を行い、後継者育成に資することができました。中でも「船待神社神楽子供獅子踊り保存伝承事業」では、お囃子の講習事業を行い、以前はテープで行っていたお囃子を生演奏で披露し、講習の成果で技術も向上したので、保存会や地域住民の保存伝承に対する意識も高まりました。

保存会からは「お囃子を生演奏するようになって、沿

道の市民からの注目度が高まった。子どもたちも、保存会の大人たちもモチベーションが上がった」との感想が寄せられています。

普及事業として実施した「鯨祭りをはじめとする湊・出島観光地域活性化事業」では、57年ぶりに堺市出島地区の伝統行事「鯨祭り」を復活させ、新聞、テレビなどにも数多く取り上げられるなど、忘れ去られていた地域の伝統行事を、市民に再認識してもらうきっかけになりました。大鯨の製作は、人通りの多い駅前で行い、地域の多くの人々が色々な形で参加したので、伝統行事に対する地元意識も高まりました。



住吉大社 太鼓橋を渡る鯨祭りの行列

データベース化事業については、平成23年度に約1,700点分のデータベース化を終えました。このデータは、堺市の市政情報センターのPC端末で常時閲覧や検索が可能となっています。カラー写真と付加情報により、市内の遺跡をより深く、また身近な存在として感じる機会を提供できました。

百舌鳥古墳群講演会では470人、史跡土塔講演会では、同時に行った土塔の現地公開と合わせて450人の参加がありました。アンケートからは、堺市内のみならず多くの方々に関心を持って頂いている事や、堺市の文化財についての意義や価値について理解する良い機会であったとのご意見を頂くことができました。



百舌鳥古墳群講演会

6 今後の予定

堺市での計画は、民俗芸能・伝統行事の保存伝承と埋蔵文化財のデータベース、公開事業を中心としてスタートしましたが、平成24年度は、能楽、邦楽器、日本舞踊、茶華道など地域の文化遺産に関する体験事業の関連団体を含めた実行委員会を再度組織し、事業名称も「堺市地域文化遺産活用活性化事業」と改めて、より幅広い伝統文化の活性化を市内全体で推進する予定です。

各保存団体が実施する事業の他にも、実行委員会の独自の事業として、伝統工芸に関するワークショップの実施や、伝統行事の記録作成事業等を行い、地域の伝統文化に関する市民の意識を高め、伝統文化の担い手の裾野の拡大につながるような事業をすすめていきたいと考えています。

また、「収蔵資料データベース化事業」については、約1,700点分のデータ化を予定していますので、今後も公開を行うと同時に、データベースのより一層の充実を図っていきます。



1 計画の概要・実施体制

重要無形民俗文化財について、平成23年度に保存継承計画を策定しており、これに基づき事業を実施します。

- ・淡路人形浄瑠璃保存継承及び普及啓発事業

- ・阿万の風流大踊小踊保存継承及び記録作成事業

伝統文化子ども教室事業の廃止に伴う子どもを含めた地域住民のための伝統文化体験事業及び普及啓発事業を実施します。

- ・伝統文化子ども教室事業

- ・子ども伝統芸能発表会事業

2 補助事業名

- ・南あわじ市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

3 補助事業者名

- ・南あわじ市の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①情報発信事業

南あわじ市の国・県・市の指定重要無形民俗文化財をはじめ、祭礼行事や伝統芸能、淡路人形浄瑠璃の歴史や現在の淡路人形浄瑠璃及び後継者団体の活動等の紹介をするパンフレット、ホームページを制作しました。

パンフレットは、淡路島内の観光案内所や公共施設のほか、阪神間の旅行社・集客施設等にも配布しました。



パンフ、報告書等

②人材育成事業

淡路人形浄瑠璃の復活公演「賤ヶ嶽七本槍 政左衛門館の段」上演に必要な衣装・道具類の修理と新調を行う一方、淡路人形座の座員研修として、浄瑠璃講座9回（登場人物の相関関係、場面の状況などについて）・鳴り物講座6回（効果音としての太鼓、鼓の使い方について）・人形遣講座6回（文楽座員による人形の振付、演出について）・舞踊講座3回（「男」人形の表現方法について）・床山講座8回（登場人物にあわせた人形カシラの髪結いについて）の各講座を実施しそれぞれの技能の向上を目指すとともに、地元アマチュア団体の指導を実施しました。

これら研修成果の発表の場として、市内公民館において、淡路人形浄瑠璃復活公演「賤ヶ嶽七本槍 政左衛門館の段」を行い、同時に浄瑠璃研究者による講演会を行いました。

③普及啓発事業

淡路市・洲本市において、淡路人形座の公演及び浄瑠璃研究者による講演会を行いました。

淡路市公演：淡路市立サンシャインホールにおいて、「戎舞」「壺坂霊験記」「奥州秀衡有髻塚」の上演と浄瑠璃研究者による講演「幻の名作『奥州秀衡有髻塚』」を実施しました。参加者120名。

洲本市公演：洲本市立洲本文化体育館において、「戎舞」「東海道中膝栗毛」「仮名手本忠臣蔵」の上演と浄瑠璃研究者による講演「淡路座の人形早替り」を実施しました。参加者300名。

市内の公民館施設や淡路人形浄瑠璃資料館等において、引田家文書講座3回（淡路人形浄瑠璃の元祖である引田家文書について）、子どもえびす舞語り教室6回（淡路人形座の太夫が市内の小学生を対象に語りを指導）、芝居小屋運営講座5回（新淡路人形浄瑠璃館開館に向け、地域との協体制づくりについて）を行うとともに、公演や講座の際に淡路人形浄瑠璃を紹介するための教材を製作しました。

④継承事業

淡路人形協会では、緞帳・金看板・兵庫県指定重要有形文化財を含む淡路人形カシラの修復、解説パネルの製作や、過去の演目に関する準備等について検討委員会を開催しました。

阿万風流踊保存会では、用具の新調及び修理を行い、少子高齢化が進み保存会のメンバーが漸減していく中、阿万地区内で若い世代の踊り手を募り、後継者の育成と技能の向上をはかるとともに、9月11日に亀岡八幡神社で開催された秋季例大祭において、境内で神前に向かってむしろを敷き舞台とする本来の形式で全演目を上演し、一般公開しました。



【阿万風流大踊小踊】小踊・第1番「神楽踊」 淡路人形協会（男人形振付指導）

伝統文化子ども教室では、百人一首、柔道、華道教室などのほか、地域に伝わる郷土芸能を継承するための教室も開催し、日本の文化に対する関心や理解を深めました。

市地区子ども教室では、平成18年度に復活させた民謡「市村小唄」を伝承するため、地域の保育所・小学校を通じて講座生を募集し、実施しました。教室に参加した子どもは小学校低学年を中心に13名。平成23年7月から平成24年2月にかけて14回の教室を開催し、郷土芸能を継承することができました。また、子ども教室座敷わら

しな福童（ふくわらべ）では、南淡路地域に伝わる「だんじり唄」を伝承するため、だんじり唄の師匠を講師にむかえ、子ども教室を実施しました。教室に参加した子どもは、保育園児から高校生までの10名。平成23年7月から平成24年2月にかけて36回の教室を開催し、郷土芸能を継承することができました。いずれの団体も、郷土芸能を保存・伝承していくための足がかりとして、子ども教室を実施するとともに、積極的に発表の場を設けました。

子ども伝統芸能発表会では、郷土芸能を継承する子ども達による発表会を開催しました。合わせて、発表会出演にあたり、保存会の方々から指導を受ける中で世代間の交流も図りました。



子ども伝統芸能発表会（福童）

⑤記録作成事業

国指定重要無形民俗文化財「阿万の風流大踊小踊」を南あわじ市内の伝統芸能全体の中での位置付け、重要性等の角度から検証し、その歴史、踊りの姿態、歌詞等を総合的に記録・紹介するための冊子を作成し、阿万地区だけの文化遺産にとどまることなく、より広く郷土の文化財としての認識を深めるべく市内の小・中学校、公民館、図書館等に配布し、郷土学習に活用できるよう取り組みました。

⑥調査研究事業

兵庫県指定重要有形民俗文化財の淡路人形浄瑠璃のカシラを修復するために、専門的調査を実施し、修復に関する材料・技法をマニュアル化しました。

5 計画の実施の効果

・地域の文化遺産保存団体等で後継者育成に取り組む中、「淡路人形浄瑠璃」では、各分野の専門家による講座を32回実施し、淡路人形座員の研修意欲を高め、専門的知識や技術を向上させることができました。また、地区公民館等での講座や人形芝居の上演を9回実施し、地域の文化遺産である「淡路人形浄瑠璃」を公開する機会が充実しました。伝統文化こども教室では、百人一首・柔道・華道などの日本文化のほか、南淡路に伝わる「だんじり唄」や郷土芸能「市村小唄」に取り組む教室が開設され、小さな子どもたちが一生懸命に取り組んでいる姿をみて、子どもたちの保護者をはじめ、地域住民がそれらの魅力を再認識し、関心を持つようになりました。

・淡路人形浄瑠璃を中心とする文化遺産を紹介したホームページの開設、市内各地で行われる民俗芸能や祭礼行事等を紹介した文化遺産



市村小唄の指導

紹介パンフレットの作成（30,000部発行）を行うことにより、地域の文化遺産に関する情報ツールが充実する等、国内での認知度を向上させることができました。

- ・地域の文化遺産を「ありのまま」次世代に伝えていく必要があることから、国指定重要無形民俗文化財「阿万の風流大踊小踊」については、記録作成（保存伝承記録誌「阿万の風流大踊小踊」500部発行）を行い、国指定重要無形民俗文化財「淡路人形浄瑠璃」については、調査研究（淡路人形カシラ修復のための「復原彩色の塗り見本制作」）を実施し、文化遺産の保存や継承を充実させることができました。
- ・本事業を進めていく中で、実施団体間の連携が図られ、文化遺産所有者や保存会等の関係が深まりました。特に、子ども伝統芸能発表会では、出演団体8団体のうち伝統文化子ども教室より3団体、淡路人形協会実施事業より1団体が出演し、文化遺産の保存・伝承について情報交換の場をもつことができました。

6 今後の予定

【平成24年度】

- ・淡路人形浄瑠璃保存継承及び普及啓発事業
 - 衣装・道具類の新調
 - 淡路人形座員研修と復活公演
 - 市民講座、子ども義太夫教室の開催
 - 有識者による検討委員会の開催など
- ・阿万の風流大踊小踊保存継承事業
 - 衣装・用具類の新調と例大祭での一般公開
- ・淡路だんじり唄振興研鑽事業
 - 郷土芸能「だんじり唄」の指導方法勉強会の開催
 - 郷土芸能発表会等への参加
- ・伝統文化こども教室事業
 - 伝統文化こども教室の開催
- ・子ども伝統芸能発表会事業
 - 子ども伝統芸能発表会の開催

【平成25年度】

- ・淡路人形浄瑠璃保存継承及び普及啓発事業
 - 衣装・道具類の新調
 - 淡路人形座員研修と復活公演
 - 市民講座、子ども義太夫教室の開催
 - 有識者による検討委員会の開催など
- ・阿万の風流大踊小踊保存継承事業
 - 衣装・用具類の新調と例大祭での一般公開
- ・淡路だんじり唄振興研鑽事業
 - 郷土芸能「だんじり唄」の指導方法勉強会の開催
 - 郷土芸能発表会等への参加
- ・伝統文化こども教室事業
 - 伝統文化こども教室の開催
- ・子ども伝統芸能発表会事業
 - 子ども伝統芸能発表会の開催



奈良県文化遺産活用推進計画

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

奈良県は、我が国の国家基盤が形成された地である明日香を有し、世界遺産や豊かな自然景観に加えシルクロード文化や万葉文化の集積など世界に誇るべき文化遺産が数多く存在している地域です。

奈良県では、この文化遺産を数多く有する明日香地域を中心とした県内全域において、文化遺産の持つ歴史的価値を歴史愛好家だけではなく、一般の来訪者の方々にとって分かりやすいものにするため、埋蔵文化財を分かりやすく解説したり、建物や遺構などを復原するといった「歴史展示」の取組を行っているところです。

それに加え、1300年祭のにぎわいを一過性のものとせず、また県の重要課題である南部地域の活性化について重点的に支援を行うため、その地域の文化遺産を活かしたフェスティバルなどのイベントの開催や文化遺産に関する情報発信、各種効果的な取組を実施するための文化関係機関の連携、次代を担う子どもたちや外国人に芸術文化や文化財に親しんでもらい、興味をもってもらいような人材育成を目的とした施策を実施することとしており、こういった取組を足がかりに、奈良の豊かな文化遺産を日本国内だけではなく、奈良の文化と関係の深い東アジアを中心とした世界に向けて発信していきます。

具体的には、奈良県文化芸術振興プラン（平成15年度策定）、奈良県南部振興計画（平成22年度策定）及び奈良の未来を創る5つの構想案（平成22年度策定）のうち「(仮称)ポスト1300年祭構想」を踏まえ、次の事業を実施します。

- ①奈良フェスティバル～古都の歴史的建造物とわが国古典芸能の協奏・発信事業
- ②世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用した観光振興事業
- ③トライアングルミュージアムズ推進事業
- ④「こども向け体験学習事業」

本事業については、奈良県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行います。

主な担当課、役割

- 文化・教育課：文化芸術振興に関する指導・助言、補助金に関する全体調整
 - 南部振興課：南部地域の観光振興に関すること
 - ならの魅力創造課：トライアングルミュージアムズの推進に関すること
 - 文化財保存課：文化財の取扱等に関する指導等
- また、事業の実施については、次の団体が実施。
- 奈良フェスティバル実行委員会(①の事業を実施)
 - 奈良県「紀伊山地の霊場と参詣道」活用実行委員会(②の事業を実施)

構成団体（小辺路野迫川語り部の会、奈良県、野迫川村）

- トライアングルミュージアムズ推進会議（③の事業を実施）

構成団体（奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館とその関係機関）

- 檀原考古学研究所附属博物館
- 子ども・外国人向け「考古学を体験しよう」実行委員会（④の事業を実施）

構成団体（檀原考古学研究所附属博物館、檀原考古学研究所、(財)由良大和古代文化研究協会）

2 補助事業名

- ①奈良フェスティバル～古都の歴史的建造物とわが国古典芸能の協奏・発信事業
- ②世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用した観光振興事業
- ③トライアングルミュージアムズ推進計画事業
- ④「こども向け体験学習」事業

3 補助事業者名

- ①奈良フェスティバル実行委員会
- ②奈良県「紀伊山地の霊場と参詣道」活用実行委員会
- ③トライアングルミュージアムズ推進会議
- ④檀原考古学研究所附属博物館「こども向け体験学習」開催実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①奈良フェスティバル～古都の歴史的建造物とわが国古典芸能の協奏・発信事業

奈良県は、社寺や埋蔵文化財等、世界でも有数の文化資産・遺跡が集中しています。それに加えて、無形文化遺産の分野でも、雅楽・能楽をはじめ多くの古典芸能が本県から生まれ、また、伝統芸能でも多彩で長い歴史を持つものが県内各地に伝承され、その保存・継承の活動も大変盛んです。「奈良フェスティバル」では、そのような奈良特有の文化資源を活用して、観光振興・地域振興の成果を上げようとするものです。

従来、北和（奈良市）に集中していた観光力・地域力を、本事業では、奈良県全域にも均衡のとれた発展を促すべく、3年計画のなかで、各年それぞれに南和、北和、中和にスポットを当てた事業を展開しています。1年目に当たる今回は、吉野(南和)を中心としたフェスティバルを9月から10月にかけて開催しました。

○奈良フェスティバルイベント 記念セミナー

〈開催日時〉平成23年9月17日(土)

〈会場〉帝塚山大学 学園前キャンパス

〈プログラム・出演者〉

第1部 14時～15時

対談「伝統芸能、演ずることと鑑賞すること」

出演 野村萬斎、秋吉久美子

第2部 15時～16時半

パネルディスカッション「奈良の文化遺産を活かした地域の活性化」

コーディネータ：堀井良殷

(大阪21世紀協会理事長)

パネラー：田中利典(金峯山寺執行長)

千田 稔(図書情報館館長・

帝塚山大学特別客員教授)

長岡千尋(談山神社宮司)

小日向えり(歴ドル＝歴史好きアイ

ドル・奈良出身)

〈料金〉無料 〈参加者〉500名

○奈良フェスティバルイベント 吉野芸能祭2011

吉野芸能祭 金峯山寺 奉納歌舞伎

～仁左衛門・孝太郎・千之助の名優三代。

吉野の秋、幻想の歌舞伎の舞～

〈開催日時〉平成23年10月8日(土)・9日(日)

開場18時、開演18時30分、終演20時

〈会場〉金峯山寺蔵王堂 特設舞台

〈公演内容〉

金峯山寺 ほら貝の演奏

／執行長 田中利典氏ご挨拶

「吉野芸能祭 奉納歌舞伎 奉納歌舞伎」

一、藤娘 片岡孝太郎 20分

二、連獅子 片岡仁左衛門、片岡千之助 55分

〈来場者数〉10/8・9 両日 1,000人

○奈良フェスティバルイベント 吉野芸能祭2011「御田植神事」

〈開催日時〉2011年10月9日(日)

〈会場〉吉野水分神社境内

〈出演・伝承者〉御田植神事保存会

〈解説・司会・進行〉吉野町教育委員会

〈来場者数〉80名

〈内容〉吉野の文化財等を舞台にした吉野に継承される民俗芸能の上演。地域の中学生、高校生及び吉野芸能祭に訪れた観光客を対象にした御田植神事の体験セミナー。

②世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用した観光振興事業

○地域の文化遺産普及啓発事業

今まで観光において、マイナス面ととらえられていた冬の世界文化遺産「熊野古道『小辺路』」を歩くモニターツアーを開催し、語り部によるガイドなどを通じ「小辺路」の理解を深めるとともに、冬の熊野古道の魅力を発掘しました。また今後の展開に資するため、参加者に対してアンケート調査を実施

しました。

開催日：平成24年2月11日(土)～12日(日)

(1泊2日)

参加人数：一般32名

場所：野迫川村内の熊野古道「小辺路」

○地域の文化遺産調査研究事業

今後の観光振興の戦略立案に役立てることを目的に、文化遺産や地域がどれだけ一般に認知されているかを調べるため、野迫川村の認知度、世界文化遺産「熊野古道『小辺路』」などの文化遺産・観光施設などに関する調査をインターネットで実施しました。

委託期間：平成23年11月1日～平成24年3月31日

対象地域：野迫川村

○地域の文化遺産情報発信事業

地域の文化遺産・観光施設に関する情報を、来訪者に対して発信するツールとして、パンフレットを作成しました。

委託期間：平成23年11月1日～12月25日

対象地域：野迫川村、川上村、上北山村、下北山村

作成部数：各5万部

配布先：道の駅、各地域の宿泊施設及び観光施設、主要駅など

③トライアングルミュージアムズ推進計画事業

奈良公園は、世界遺産に登録された自然、文化財を数多く保有し、継承された伝統行事も多い、また近年、燈花会などの新しいイベントが実施されるなど、観光地としてのトレンドが高くなりつつあります。

この奈良公園には、文化芸術の発信拠点として、奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念写真美術館が存在し、それぞれ個性溢れる作品展示を行ってきたところです。

しかしながら、観光地としてのトレンドを高める取組がなされる中、3館の近隣性を活かした情報発信や集客戦略の必要性がクローズアップされるとともに、新たな文化発信の機能を有することが共通課題となっています。

このような状況の中、平成23年度において文化庁より、ミュージアム活性化支援事業の募集が開始され、3館では「トライアングルミュージアムズ推進会議」を設立し、3館連携による新しい取組を検討・開始しました。

まず、3館連携による情報発信として、東京にある奈良県アンテナショップでのセミナーを開始、奈良ファンが多く詰めかける同館でのセミナーでの3館の展示内容や奈良公園での伝統行事について、あまり知られていない情報を盛り込む講演を行いました。

また、身近な施設として感じて頂くため、地域のホテル、商店街との連携に取り組みました。奈良市内5ホテルとのスタンプラリーへ参加、さらにはポイント

カードを導入し、商店街と共通割引会員として連携をしています。

④「こども向け体験学習」事業

この事業は、主に2つの事業を実施しました。

○ 子ども向けの体験学習事業

子どもに、いろんな体験を通して考古学に興味をもってもらい、考古学の博物館として、意識の醸成、認知を高めて、教育・普及活動を推進します。

○ 移動博物館事業

「博物館を授業で使いたいが、授業中はなかなかかけられない」、「遠いので行けない」といった学校の先生方の要望に応じるべく、学校まで博物館職員が出向く「移動博物館」を実施しました。

〈内容〉

○ 体験学習事業の開催

主な事業として次のA～Dを実施。

・「稲を育てよう」

弥生時代の生活の一部再現体験

時期：平成23年8月7日

稲収穫に使用する石庖丁の作成

：平成23年10月29日 稲刈り体験

場所：県立橿原考古学研究所附属博物館、
橿原市昆虫館他

参加者24組（うち子供35名）

・「夏休み子ども考古学講座 瓦づくり体験」

時期：平成23年8月20日・21日

飛鳥・奈良時代の瓦作成

場所：県立橿原考古学研究所附属博物館、
橿原市千塚資料館

参加者：小学生30名

・「子ども拓本体験」

時期：平成23年10月22日 瓦等の拓本作成

場所：県立橿原考古学研究所附属博物館

参加者：41名

・工作教室「辰の置物を作ろう」

時期：平成23年12月17日

場所：県立橿原考古学研究所附属博物館

講師：成瀬匡章（森と水の源流館）

参加者：41名

○ 県内学校等教育施設での出前博物館「移動博物館」の開催

平成23年度 計5回

場所：下市町立下市小学校など5校

参加者：小・中・高校生 計 271名

主な内容：博物館の楽しみ方、勾玉づくり、藤ノ木古墳、出土遺物のペーパークラフト作成など

典芸能の協奏・発信事業

1年目に当たる今回は、吉野(南和)を中心としたフェスティバルを9月から10月にかけて開催した。その中でも中心となったのは、金峯山寺(蔵王堂)で片岡仁左右衛門らによる歌舞伎の上演で2千人以上の県内・県外の観光客を集め、春の桜の時期のみに集中していた吉野の観光に、春以外の時期での観光プロモーションのあり方に、強い示唆を与えたものでした。水分神社での「御田植神事」の伝統芸能上演や、奈良市で行われた野村萬斎氏等の実演家と千田稔氏など研究者によるシンポジウムも大きな反響を呼びました。

○奈良フェスティバルイベント 記念セミナー 〈参加者〉500名

第1部は、日本を代表する狂言師、野村萬斎氏から伝統芸能を演じるとはをテーマに、また、第2部では、文化事業実施団体、大学教授、寺・神社などの文化や教育分野の代表者が、奈良の文化遺産と日本の芸能をどのように結びつけて、国内外に発信し、後生に残していくかの知識交流と聴講者への情報共有が行われました。

○奈良フェスティバルイベント 吉野芸能祭2011 「吉野芸能祭 金峯山寺 奉納歌舞伎」

〈来場者数〉10/8・9 両日 1,000人

〈連携旅行代理店〉JTB / 14コース、クラブツーリズム / 3コース造成

「御田植神事」〈来場者数〉80名

〈連携旅行代理店〉JTBコース造成

歌舞伎公演および民俗芸能公演の鑑賞ツアーを、日本を代表する大手旅行代理店と連携し、ツアー造成を行い、全国から非常に多くの誘客に成功し、全国から訪れた方に奈良県吉野の文化遺産の認知度を向上させることができました。

また、文化遺産である吉野水分神社を舞台に、吉野の地域に伝承される民俗芸能を鑑賞してもらうことで、通常人が入らない地域まで観光客が入り観光振興を促したことから、地域の民俗芸能に触れて、吉野という土地への理解が非常に深まり、今後の、文化遺産を活かした観光振興・地域活性化への第一歩となりました。

②世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用した観光振興事業

平成23年9月の台風23号紀伊半島大水害により、中止を余儀なくされた事業があり、十分な事業が実施できませんでした。

しかしながら観光活性化の広報ツールとなるパンフレットの制作、インターネットを活用した認知度調査も実施することができ、次年度以降の観光活性化方策を検討する基礎となる素材は作成できました。

パンフレット制作について、大手旅行雑誌とタイアップしたパンフレットを制作したことで、雑誌のブ

5 計画の実施の効果

①奈良フェスティバル～古都の歴史的建造物とわが国古

ランド力を活用でき多くの方に手にとってもらえるパンフレットとなり、地域の文化遺産に関する情報発信ツールが充実する等国内での認知度を向上させることができました。

また、「冬の小辺路」モニターツアーの実施について、定員を超える応募のなかから合計32名の参加があり、またアンケート結果によると参加者の反応はおおむね良好であったことから、地域の文化遺産の新たな活用方法を発見することができました。その他、鉄道会社、バス会社、宿泊施設と良好な連携が図れ、観光商品造成を図ることができると認識しています。

③トライアングルミュージアムズ推進計画事業

「奈良に行く新たな目的を見つけることができた」、「近くに行っているも見逃していた」などの意見があり、より一層興味を抱く場となっています。

また、商店街との連携は、3館の展示やイベント告知において、多くの商店の店頭貼りという協力を得ることもできました。

④「こども向け体験学習」事業

博物館の考古資料、道具等を通じ、観察、体験することによって、考古学や文化財についての教育的な機会になるとともに、子どもたちに考古学をより身近に感じてもらう機会となりました。また、体験を通じて、その製作の労苦を実体験し、完成の喜びと達成感を得られたものと考えられる。参加者は、作品等を持ち帰り、各家庭内でも博物館の存在・活動が話題にのぼる契機にもなりました。博物館活動の広報的効果も得られたと考えています。

その結果、歴史学習に興味を持った児童生徒も多く、全員で有意義な時間を過ごすことができた。移動博物館の取組みでは、担任の先生も今後授業に取り入れて、さらなる教科指導の充実を図りたいと満足していただきました。

6 今後の予定

①奈良フェスティバル～古都の歴史的建造物とわが国古典芸能の協奏・発信事業

本年度も、文化遺産と伝統芸能の魅力を発信し、国内外からの観光客を誘致することで、奈良県の文化遺産をブランドとして認知事業を実施いたします。

①平成24年10月29(月)・30(火)

「奈良古典芸能フェスティバル 世界遺産薬師寺奉納歌舞伎舞踊公演」



金峯山寺特設舞台上で「連獅子」を舞う、片岡仁左衛門と孫・片岡千之助

会場：薬師寺大講堂前特別舞台

②11～12月頃予定

「奈良・伝統文化シンポジウム」(内容未定)

会場：奈良県内ホール

②世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を活用した観光振興事業

今後は紙媒体の他、デジタル媒体(映像やWEB)の情報発信ツールを増やしていくとともに、シンポジウムなどを行うことにより地域の文化遺産を内外に認知してもらう取り組みを図っていきます。

また地域の文化遺産の魅力を発掘するために実施するモニターツアーについては各年齢層ごとなど、ターゲットを絞った形で実施し、旅行商品開発につなげていく予定です。



冬の熊野古道「小辺路」モニターツアー実施の様子

③トライアングルミュージアムズ推進計画事業

今後とも、3館の連携した情報発信の取組を継続させるとともに、商店街との連携による新たな取り組みを模索しており、奈良の伝統的な技術を有する商店の協力の下、「奈良ならではの伝統ワークショップ」の展開をオフシーズンの誘客策として計画中です。

さらに、無償入館となる「関西文化の日」は、例年多くの入館者が来られることから、3館でリレーコンサートを実施し、新たな文化発信施設としてアピールしていきたいと考えています。



(東京セミナー ～冬の奈良へ行こう)

④こども向け体験学習」事業

今後、県内の子どもたちに対して、考古学や文化財に興味を持ってもらえるような魅力的な体験学習の実施を図っていきます。



移動博物館(奈良県立十津川高校)

工作教室「龍」置物づくり





和歌山県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

(平成23年7月～平成26年3月)

1 計画の概要・実施体制

和歌山県では、和歌山県文化芸術振興条例（平成21年3月策定）及び和歌山県教育振興基本計画（平成21年3月策定）並びに和歌山県観光振興実施行動計画に基づき、文化芸術の振興及び文化遺産の保存・活用を図るため次の事業を実施します。

①和歌山県内の文化遺産の情報発信及び普及啓発並びに調査研究の各事業

②県立博物館施設の公開活用事業

本事業については、和歌山県が全体計画の企画、指導、事業の指導等を行います。

文化財の取扱等に関する指導等については和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課、観光業務に関する連携については知事部局観光局観光振興課が、博物館施設の公開活用については県立博物館及び紀伊風土記の丘が、それぞれ担当します。

2 補助事業名

①和歌山県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域）

②和歌山県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）

3 補助事業者名

①和歌山県文化遺産活用活性化委員会

②和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会

4 計画に基づく補助事業の目的・内容

①和歌山県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（地域）

和歌山県内には、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめ、特別史跡岩橋千塚古墳群、史跡和歌山城や名勝和歌の浦など多数の文化遺産が存在します。

県内に存在する有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物などの文化遺産を活用して、県内外の人々にその価値を広く知ってもらい、来訪を促進し、地域の活性化を図ることを目的として、平成23年度、和歌山市地域を対象に事業を実施しました。

○情報発信事業

平成22年8月5日に国名勝に指定された「和歌の浦」の観光振興及び地域活性化のために、A5版小冊子と和歌の浦周辺の文化財や生物、年中行事などをまとめたA2版折込み文化財マップを作成し、関係機関や学校などに配布しました。

また、和歌山県内の指定文化財を紹介した「わかやま文化財ガイド」(<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/>)



マップ



小冊子

bunkazai/index.html)のホームページ（スマートフォン対応）を作成し、公開しました。

○調査研究事業

名勝「和歌の浦」や重要文化財「東照宮本殿」等有数の文化遺産が存在する和歌浦地域の文化遺産を観光資源としての活用するため、モニターツアーを実施し、観光客の目線から調査しました。



検索画面



モニターツアー（東照宮）

②和歌山県の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム）

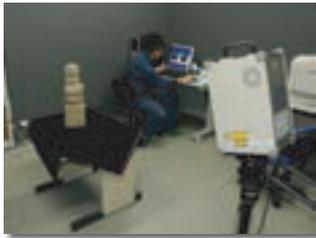
高齢者や視覚障害者などあらゆる利用者が郷土の歴史を快適に学ぶことができる博物館のユニバーサルデザイン化や特別史跡岩橋千塚古墳群の価値を県内外の多くの人に知っていただくことを目的に下記の事業を実施しました。

○触れる資料を活用したユニバーサルデザイン化事業（和歌山県立博物館）

和歌山県立博物館常設展示改善計画の一環として、館蔵品等のレプリカを作製し、常設展示室内に設置し、あわせて活字と点字、写真図版と盛り上げ印刷を組み合わせる特殊印刷技術を用いて、視覚障害者が健常者とともに使える展示図録を作成しました。また、弱視者を含む視覚障害者や高齢者に対する展示環境の改善を図りました。

さわれるレプリカ資料（銅鐸や埴輪、仏像等7点）作製は、和歌山県立和歌山工業高校と連携し、3D立体コピー技術実習の一環として行いました。平成24年3月10日からの常設展示室への設置に先立って、2月10日～3月9日の会期でロビー展「できたて！今年の新作さわれるレプリカ！」を開催し、先行公開しました。

さわって読む図録については、活字と点字、写真図版と盛り上げ印刷を組み合わせる特殊印刷技術を用いて、視覚に障害のある方とない方がともに使える図録『きの



和歌山県立和歌山工業高校の生徒による3D立体コピーによるレプリカ制作風景



作成した触れるレプリカ

くにの祈り—さわって学ぶ祈りのかたち—』を作製しました。図録の作製にあたっては、和歌山盲学校の教員から多くの助言を得ました。

また、LED光源を展示室内に新たに設置して、保存環境を維持しつつ照度を確保することで、通路の照度環境を改善し、快適性の向上に努めました。

○和歌山県立紀伊風土記の丘施設活性化支援事業（ボランティアの育成事業）

紀伊風土記の丘ボランティアガイドによる古墳ガイドにより来館者に文化財の価値や古墳群の魅力に触れてもらい、文化財保護の意識を培う機会を提供しました。ガイド方法は、申込団体を5人から8人の小グループに分け、2人から3人のガイドを付けて紀伊風土記の丘の公開古墳を1時間かけて巡るものです。

幅広いボランティアを育成するために紀伊風土記の丘を解説する上でとくに重要な古墳や移築民家、県指定有形民俗文化財、園内の植物などを紹介するガイドブックを作成し、ボランティア養成講座においては、受講者のテキストとして活用しています。また、当ガイドブックは歴史教育の一助となるように県内の全小学校に配布しました。

加えて、ボランティアの研修として奈良文化財研究所が主催している平城ボランティアの視察を行いました。



大日山35墳におけるボランティアのガイド風景



奈良県平城ボランティア視察の様子

5 計画の実施の効果

○情報発信事業

和歌山県内の文化遺産を紹介する情報発信ツールが充実する等、県内外における認知度を向上させることができました。

○調査研究事業

和歌浦地域における文化遺産を活かした観光地としての基盤整備を図ることができました。

また、調査結果を地元関係者にフィードバックするこ

とで、地域の文化遺産に対する理解、運営の技術等を向上することができました。

平成22年より本格活動を始めた語り部サービスのレベルアップを支援し、また、体系的な整備が遅れていた和歌の浦のウォーク情報を実査し、その成果を結実させました。

○触れる資料を活用したユニバーサルデザイン化事業（和歌山県立博物館）

今回作製したさわることができるレプリカ資料は、実際に手にとって形を確認することができることから、展示のバリアフリーにつながるものと考えています。さわることによって資料を身近に感じ、視覚以外の情報も得ることは、展示室内の照度環境改善とも合わせて、子どもから高齢者まであらゆる来館者が展示を楽しむことができる、博物館のユニバーサルデザイン化です。

さわって読む図録は、視覚に障害のある方が和歌山県の郷土学習を行うための教材がほとんどない状況において、博物館での調査研究活動の蓄積を元にして内容を構築し、郷土の歴史を身近に感じてもらうために作製しました。見える人、見えない人、見えにくい人が共に学びあえる本を目指しました。

こうした活動を通じて地域の文化遺産を公開し、またその情報を共有化する機会を充実させることができました。

○和歌山県立紀伊風土記の丘施設活性化支援事業（ボランティアの育成事業）

平成23年10月から平成24年3月31日までに8団体597人の利用者を案内。利用者の声はおおむね好評で「知人を連れてまた訪れたい」「解説がわかりやすかった」などの意見をいただくなど、再度、ボランティアによるガイドを希望する団体もありました。また、ボランティア講座への参加を希望する声もあがっています。

6 今後の予定 3カ年計画事業の①のみ

平成24年度については、古墳・参詣道と王子社・城館跡・社寺・名勝庭園などテーマ別に有機的に結びつけた歴史回廊として捉え、地域別・目的別にいくつかの周遊ルートを提言して来訪者の利便性を高めた『和歌山県地域の文化財歴史回廊マップ』のホームページを作成・公開し、全国に情報を発信する事業を実施します。

また、国名勝「円月島（高嶋）及び千疊敷」を始め有数の文化遺産が存在する白浜町において、モニタリングを実施し、文化遺産を活かした観光ウォークコースとして確立させるため、ウォークイベント（参加者アンケート）を実施し、その魅力と課題を検証し、同時に語り部の充実等、文化遺産を活かした観光地としての基盤整備をはける調査研究事業を実施します。